

平成 29 年度 第3回 新河岸川流域川づくり連絡会 議事要旨

平成 30 年 1 月 30 日 (火) 清瀬市 野塩地域市民センター 第二会議室

I. 平成 29 年度第 2 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨

平成 29 年度第 2 回新河岸川流域川づくり連絡会議事要旨が承認された。

II. 新河岸川流域川づくり連絡会活動協議事項

1. 前回議事の対応

- ・しんぶん里川 84 号の特集記事の作成に際して、発表会開催自治体である所沢市の河川課にインタビューをした。
- ・現地見学会のバス移動中に、所沢市河川課からしんぶん里川 84 号の特集記事を用いて、日頃の業務について説明することとした。

2. 第 13 回川でつながる発表会について

■主な意見など

<発表会について>

- ・発表内容に応じたコメンテーターを選出できるとよい。
- ・連絡会加盟団体に所属しているが連絡会に出席していない方にもコメンテーターとして参加していただくため、指定した市民団体から数名選出できるとよい。

<その他>

- ・仕事の勤務時間の融通がきくメンバーが増えてきたため、開催時刻を早めることができるとよい。

■決まったこと

- ・発表会前半では、黒目川流域川づくり懇談会から 1 名、和光自然環境を守る会から 1 名選出し、発表会後半では、不老川流域川づくり市民の会から 2 名選出する。
- ・次回連絡会は試行的に 18:00 開催とする。

III. 勉強会

「湧水に関する情報提供について」と題し、過去および平成 29 年の全国的な湧水の事例を交えて、新河岸川流域における湧水の状況に主眼を置き、意見交換を行った。

■主な意見など

- ・今回の勉強会では、水源の枯渇などの一般的な内容であったが、次回以降は地下水位の低下や瀬切れなどに焦点をあてた勉強会にしてほしい。
- ・空堀川では治水対策によって、瀬切れが起きやすくなっている印象がある。
- ・空堀川の瀬切れ区間が徐々に伸びている印象もある。そのため、川まつりの開催地で瀬切れが発生し、川遊びなどの企画が実施できなくなることを懸念している。
- ・不老川流域において、国道 16 号を整備する際に、水源域をコンクリートで埋め立てたため、地下水が流れにくくなっていることが考えられる。
- ・不老川では、春にアユが遡上してきた時には水があったが、その後瀬切れが発生し、アユが干からびて死んでいた。このような現状があるため、流域住民の身近な河川の湧水(瀬切れ)に対する関心は高い。
- ・新河岸川流域では農業用水を取水している所が幾分ある。河川水と農業用水の水量の配分について、行政は検討しているのか。

■今後の連絡会活動について

- ・河川水を増やすためにできることを考える必要がある。
- ・生活用水が地下水と河川水のどちらなのかが気になる。また、首都圏における生活用水の内訳を知りたい。
- ・河川整備が進むほど、直線的な河川になっている。河川自体の貯留機能が低下しているのを感じているため、その関連性を知りたい。
- ・流域住民として、湧水に対してできることを知りたい。
- ・平成 29 年は 9 月まで湧水が続いたが、10 月以降は多くの雨が降って湧水が解消した興味深い傾向が見られたため、10 月以降のデータも交えて議論できるとよい。

IV. 情報交換

- ・2 月 3 日 (土) に、さいたま市民会館うらわにおいて川の再生交流会が開催され、午後の部では新河岸川流域分科会がある。
- ・3 月 17 日 (土) に、筑波大学において第 13 回「川の日」ワークショップ関東大会を開催する。
- ・3 月 25 日 (日) に、新河岸の川越地区で水辺の総合調査を行う。
- ◆平成 29 年度第 4 回新河岸川流域川づくり連絡会開催について
- ・平成 30 年 2 月下旬に開催予定とする。